



株式会社パシフィックアートセンター

株式会社パシフィックアートセンター ホームページ <http://www.pacnet.co.jp/>

サイボウズ デヂエ <http://d.cybozu.co.jp/>

株式会社パシフィックアートセンターは、1970年4月設立の舞台装置(大道具)、照明、音響などの舞台美術制作の会社。劇場・会館・ホール・アリーナ等の舞台諸設備の運営管理、舞台装置、照明、音響の設計製作運営及び機材等のレンタルを行っている。同社のような、音響、照明、大道具の舞台美術の全セクションを持っている舞台美術関係の会社というのは、日本では数社しかない。全セクションがあるからこそ、事前の打ち合わせを綿密にし、スムーズな運営が行えるという強みがあり、その活躍の場は、古典や歌舞伎の劇場、ミュージカルからアイドルのコンサートまで、多岐にわたっている。

2000年5月にサイボウズ製品と出会い、情報の共有化を進めている。



株式会社パシフィックアートセンターは、社員数450名。その内、約400名が技術職である。スタッフは、日本各地、時には海外公演まで赴き、良い舞台、良いコンサート作りに一役を買っている。しかし、社員の約90%が技術職であり、離れて仕事をする社員達の情報共有というのが悩みの種でもあった。

社員の約90%が技術職ということは、現場での作業が主となり、机の前にいる時間は少ない。効率よく情報共有、特にスケジュールを共有するのに何かいい方法はないかと考え、営業部・企画制作室 部長の 並木 毅氏をはじめとするチームがグループウェアの導入を検討したのが 2000 年のことだった。

「グループウェアを導入する際には、ロータスノーツ や Exchange も検討しましたが、当時はインフラ構築も高額であり、クライアントライセンスがかかるため、コスト的にあわないと判断しました。ちょうどその頃、展示会で サイボウズ Office 3 を見たんです。他の Web グループウェアと見比べて、よく出来ているなと思って導入したのです。その頃は、利用していた社員が50人くらいだったので、サーバーもデスクトップパソコンを流用していました。」(並木氏)

はじめは本社と本社以外からダイアルアップでアクセスできる人の数人で、テスト運用をしていたが、全員じゃないとスケジュールを管理する意味がないと感じて、全体での運用に切り替えたそうだ。その後、サイボウズのホームページを見て「DB メーカー」(デヂエの前バージョン)を知り、「DBメーカー」のホームページで公開していた、同社の協力会社である株式会社トウ・ミックス様の活用例(機材設置のノウハウをデータベース化し Web 上で情報共有)を見て興味を持ったという。それまでファイルメーカーのサーバー版で運用していた、業務で利用する書類のテンプレートや各事業所のスケジュールを もっと簡単に WEB で共有化することを考え、導入に至った。



株式会社パシフィックアートセンターでの デヂエ の運用は、システム管理者が IT 推進室(並木様他 1 名、兼務)のみ、ライブラリ管理者は IT 推進室とそれに付随するメンバーで行われている。社員よりライブラリ作成の要望が上がり、ライブラリを設計することもあるという。ライブラリ管理者は、みな高度なデータベースソフトは未経験であるが、簡単に利用できているということだ。

「フォルダを、業務情報、営業情報、技術情報、委員会・部会情報、福利厚生、IT 情報に分けて運用を行っています。業務情報フォルダは、定型業務に関わるものを管理しています。例えば『営業ジョブナンバー管理』。簡単にいうと、仕事の Job ナンバーを管理しているライブラリです。営業担当者が仕事を受注したときに営業伺書を回し、経理部門で Job ナンバーを登録。支払い申請や必要経費などの申請の際には、この Job ナンバーが必要となります。ライブラリは、Job ナンバー、担当者、催物名、公演場所、クライアント名、最終日、請求書を出したかのチェック、入金確認といったフィールドでできています。経理部門で請求書を発行した後や入金を確認した後に デヂエ にチェックを入れ、ステータスがわかるようにしています。」(並木氏)

『PAC(Pacific Art Center の略) MAP』というライブラリには、各劇場や会館、ホールなど、現場の詳細(PDF ファイル)、地図(PDF ファイル)、住所、電話など情報をひとまとめにしている。

「こういったものは、以前は サイボウズ Office の文書管理でやっていたんですが、好きな項目を作れないなど自由度がなかったので、デヂエ に移行したんです。急にあそこに現場にいく、ということもあるから、デヂエ だと素早く検索して使えて非常に便利です。」(並木氏)

他には、『定型業務書式』や『規定一覧』がある。定型業務書式では、営業報告書のフォーマットから、個人用出勤簿、出張届、書類の流れの説明書きなど多くの書式が保存されている。こういった書式は、以前は改訂の度に FAX で情報共有されることが多かったのだが、常に デヂエ に最新のを保存することで紙の利用を減らし、必要な時にダウンロードして利用できるようにしている。



第1事業本部・劇場スケジュール

総レコード数: 99

検索 (すべて) [00] レコーダービュー (すべて) [00]

先頭へ | << 前の25件へ | 25の25件へ >> | 末尾へ

劇場名	公演名	主役	初日	千秋楽	公演チラシ(表)
国立小劇場	八形浄瑠璃 文楽		9月 2002/9/24	2002/9/29	日本の太鼓.JPG
国立大劇場	日本の太鼓		9月 2002/9/24	2002/9/29	日本の太鼓.JPG
埼玉会館	予定表		9月 2002/9/24	2002/9/29	埼玉会館.JPG
歌舞伎座	九月大歌舞伎		9月 2002/9/24	2002/9/29	歌舞伎座.JPG
新橋演舞場	九月大歌舞伎		9月 2002/9/24	2002/9/29	新橋演舞場.JPG
国立劇場	9月公演スケジュール		9月 2002/9/24	2002/9/29	国立劇場9月.JPG
新橋演舞場	博多思案橋		9月 2002/9/24	2002/9/29	博多思案橋.JPG
埼玉会館	9月スケジュール		9月 2002/9/24	2002/9/29	埼玉会館.JPG
国立劇場	9月公演スケジュール		9月 2002/9/24	2002/9/29	国立劇場.JPG
新橋演舞場	aterui (アテルイ)		9月 2002/9/25	2002/9/29	aterui.JPG
国立能楽堂	国立能楽堂9月公演		9月 2002/9/25	2002/9/29	国立能楽堂 9月 表.JPG
国立小劇場	第八回 合同公演		9月 2002/9/22	2002/9/25	第8回 合同公演.JPG
国立小劇場	第四回 音の音		9月 2002/9/10	2002/9/11	第4回 音の音.JPG

WEB化するのが
ファイルメーカーより
非常に簡単

一方、営業情報フォルダには、事業本部ごとのスケジュールを入れている。劇場名を1レコードにし、担当者、公演名や主役、初日や千秋楽の日付、公演日程表の画像、公演チラシ画像を登録している。これでいつ誰がどこで作業しているのかがわかるのだ。

「以前は、こういったスケジュールは管理していなかったんです(苦笑)。やっていたとしたら、チラシを社内に貼っていたレベルでした。地方にいる人には、FAX で知らせていました。歌舞伎などは、3ヶ月くらい全国をまわるスタッフもいます。バス移動で、朝、設営をして、夜、撤去という感じです。このように外にいるスタッフが圧倒的に多いので、デヂエ を携帯電話で見れるようにという要望が実は多いんですよ。」(並木氏)

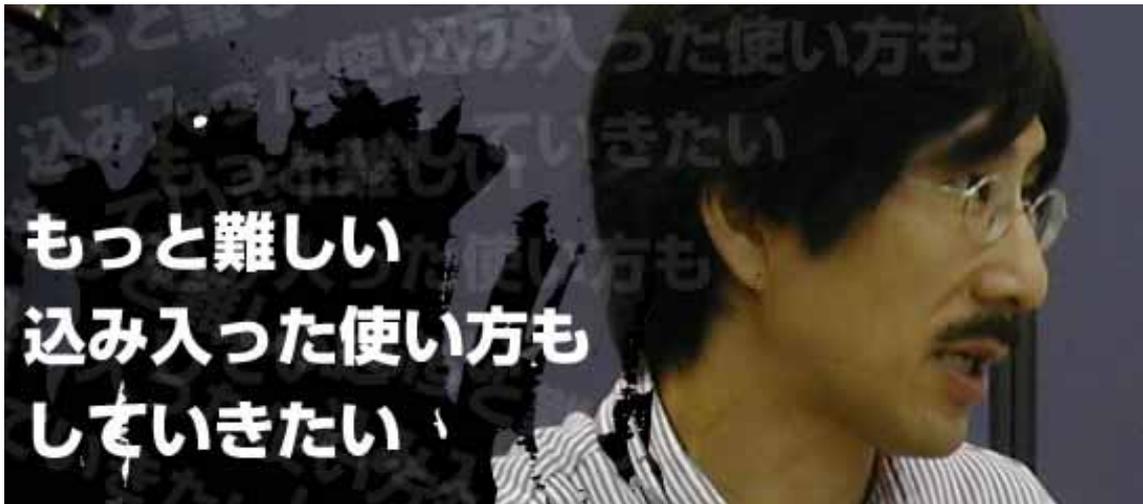
技術情報フォルダには、音響で使う機材や照明で使う機材の情報や在庫数を管理している。以前は、ファイルメーカーで管理していたが、デヂエ だと ファイルメーカーよりWEB化するのが非常に簡単ということで デヂエに移行したということだ。

他にはそれぞれのセクション毎に集まって行う部会などの議事録の管理、福利厚生施設の案内、健保からのお知らせなどの情報も デヂエ で共有している。福利厚生施設は、以前はFAX で情報を送っていたが、デヂエ にしてからは一切 FAX を使っていないという。「サイボウズ Office」の掲示板に施設のお知らせを書いて、デヂエ のライブラリの URL を記載し、リンクさせるなど運用を工夫している。



デヂエを導入したことによって、紙の節約、FAXや電話の通信コストの節約ができた、と並木氏は語る。また本業のかたわらに簡単にライブラリを作って、公開できる、というところがいいと評価をいただいた。

「サイボウズ Office、デヂエを使うことによって、リアルタイムで社員の動きがわかるようになりました。本社だけでなく、社員同士でわかるようになったんです。また、どこにいるスタッフでも、機材の在庫情報を知ることができたり、議事録を見たり、最新の書式をダウンロードできたりするのがいいですね。今は、本業が忙しくて情報を提供する閲覧型のライブラリが多いのですが、今後はメール通知やリレーションなどの機能も使いこなして、もっと便利にしていきたいです。」(並木氏)



「将来的には、もっと難しい込み入った使い方もしたいと思っています。スタッフのスケジュールなども デヂエ で管理したいと思っています。というのは、スタッフのスケジュールは、その人自身が組まないことが多いのです。シフトを決める人間が、今は Excel でやっていますが、変更があることが多いので修正が大変なんです。まあ今は1人でやっているのでもそんなに切迫はしていないんですが(笑)。レコードを日にちにして、項目に人の名前をいれればできるかなと思っていますが、一覧性が悪いかもしれないと、いろいろ思っているところです。」(並木氏)

あとは、現在はやる人がいなくて難しいのだが、株式会社トゥ・ミックス様のように、設備の設営方法などのノウハウも溜めたい、ということだった。まだまだ デヂエ の可能性をわかりきれていないので、ホームページで紹介されている他社さんの事例を参考に、いろいろと挑戦していきたい、と並木氏は語ってくれた。技術職ならではのノウハウが デヂエ に蓄積される日も、そう遠くはないだろう。



基本情報

システム概要図

利用製品	サイボウズ デヂエ（プラン 20） サイボウズ Office 6 基本セット（無制限版） サイボウズ Office 6 ケータイ/ポケット（無制限版）
業種別区分	舞台制作、舞台設備
管理者レベル	兼任管理者
システム概要	サーバー] Microsoft Windows2000 Server [クライアント] Windows クライアント
ネットワーク	インターネットへは、専用線接続。

